

かほくっ子は  
読書に夢中!

しよう

—かほく市学校司書連絡協議会—

## 「うちどく(家読)」とは？

「家庭読書」の略で「家族ふれあい読書」を意味します。現在、かほく市の子どもたちは学校での朝読書などを通じて読書にとっても親しんでいます。それをさらに家庭でも実践してみたいかですか。家族と一緒に読書をするをきっかけに、家庭内のコミュニケーションを深めることを目的とした取り組みです。

## いつ、どのように行えばいいの？

家庭で空いている時間にいつでも行えますし、食後や寝る前、などと時間を決めておくと取り組みやすいです。

本も、身近にあるものや好みのものなど、決まりはありません。  
(読み物に限らず、絵本や図鑑などでもかまいません)



### 〔例えば・・・〕

- ・ 家族で同じ本を読み、感想を話し合う
- ・ 保護者が心に残っている本を紹介し、一緒に読む
- ・ 家の中にオリジナル図書館を作ってみる
- ・ 新聞記事を読んで話し合う
- ・ 交代で読み合いするなど、お互いに読み聞かせをする
- ・ ノーメディアで行い、本を楽しむ
- ・ 折り紙や料理、工作の本などを一緒に読む(後日、実際にやってみるのもいいですね)



石川県では毎月23日を「いしかわ学校読書の日」、かほく市では「市民読書の日」としています。市内の学校でも「読書の日」を設けるなどの取り組みを行っているところが多くあります。その前後の都合のよい日などに行ってみるのはいかがですか？

## 本選びに迷ったら・・・

図書館のHP(ホームページ)などで確認してみましょう。

石川県優良図書一覧

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kodomoseisaku/seisyounenn/yuyrotosyo/yuuryoutosyo.html>

うちどく.com

<http://uchidoku.com/htdocs/>

## うちどくの良いところは何ですか？

### 家族で仲良くなれる

- ・共通の話題ができることで、会話が生まれる。
- ・親の想いや願いを伝えられる。
- ・子どもの心が安定し気持ちのゆとりができ、会話ができる。

### 感性が磨かれ、想像力が育つ

- ・心の引き出しが増える。
- ・友だち、他人の気持ちを推し量れるようになる。
- ・1冊の本を読み通すことで、達成感を味わえて我慢強さも生まれる。

### 語彙力や集中力がアップする

- ・ことばの感覚が鋭くなる。
- ・漢字が読めるようになる。
- ・集中力がつく。
- ・耳からの読書(読み聞かせ)で、人の話が聞ける子になる。

### 一生涯の宝となる読書の力が身につく

- ・読書が習慣化する。
- ・一緒に読書する楽しみが増える。
- ・好きな本、良い本を自分で発見できるようになる。
- ・広い視野で物事を捉えられるようになる。

## 実践した感想(かほく市の小学校での取り組みの声)

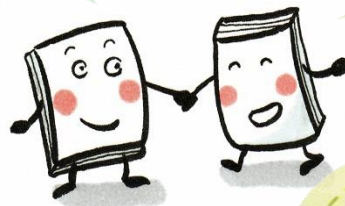
昔読んだ本だったので  
同じ本を借りてきたことがうれしかった。(保護者)

おうちの人と感想を  
伝え合って、私もお姉ちゃんも  
おもしろいと思った部分が  
全然違って、聞いてとても  
楽しかったです。(6年)

この本を親子で読んだら未来のことや、  
今の社会について話し合うことができました。  
1人で読むより、親子で読む方が考えを深め合  
うことができるなと思いました。(6年)

「ポポくんのおばけパン」を  
よんで、ぼくは、くりーむパンを  
ママにあげたくなりました。  
(1年)

一人で読書したときは  
すきなところを話しても、  
お母さんはわからないけれど、  
おうちの人と読書したら、すきなところ  
を伝え合えるので、毎日読み聞かせ  
してもらいたいです。  
(3年)



今後、うちどくの様子を随時アップしていきます！

かほく市中央図書館 HP でご覧ください。

<http://www.city.kahoku.ishikawa.jp/library/>

